

クラウドサービスによる情報教育コンテンツを用いた 授業実践とその効果

八百幸 大*1・武沢 護*2・橘 孝博*3・金田 千恵子*4・鶴田 利郎*5・八木 玲子*6・中野 淳*7
Email: yaoko@waseda.jp

- *1: 早稲田大学高等学院
- *2: 早稲田大学高等学院／早稲田大学大学院教職研究科
- *3: 早稲田大学高等学院
- *4: 早稲田大学高等学院
- *5: 早稲田大学高等学院／早稲田大学大学院人間科学研究科
- *6: 日経B P社
- *7: 日経B P社

◎Key Words デジタル教科書, 情報教育

1. はじめに

現在、デジタル教科書による教育実践、Khan Academyなどの動画による教育サイトの出現など、ICTを用いた教育は学びにおけるイノベーションの一翼を担うようになってきた。本論文は、その中でもクラウドサービスによる情報教育コンテンツを用いて、より魅力的な授業を作ることができるかを考えていくものである。

2. 日経パソコン Edu

日経B P社は2013年4月より教育機関向けクラウドサービス「日経パソコン Edu」の正式サービスを開始した^①。主な内容は、日経B P社が発行する「日経パソコン」に掲載されている記事から学生・生徒に有用なものをピックアップしたものである。さらに、このサービスと連携するワークブックや資料集との併用により教科書や副教材として使用することで、応用的な話題や最新の情報を学習することが可能である。また、サイト内にミニテストの機能を実装して自分の知識をチェックが可能であったり、学生・生徒向けのコンテンツを新規に作成したりなど、今後の発展を見込むことのできるコンテンツである。

3. 情報モラルに関する授業実践

3.1 日経パソコン Edu 導入について

従来から、本校では1年生1学期の授業時に情報モラルを扱っている。これは、高校新生生に対して早稲田大学の情報基盤システム Waseda-net のID取得を取得するための条件として、また中学部から進学した生徒たちに対しては、これまで毎年情報倫理テストを実施しているものの、改めて系統的にこの分野を学習するためである。

これまでの本校における情報モラルの授業は一般的な座学で実施してきたが、生徒は教員の話聞くだけの受動的な姿勢になりがちであった。また、情報モラルの一般論を単純に解説するだけの授業は、生徒も教員も面白みに欠けるものとなる。

そこで、今年度は生徒に対して情報モラルに関する

テーマを与え、これについて各自で調査して文章にまとめさせる、また可能であればパネルセッションなどの口頭発表で発表させる形式で進めることにした。

ただし、調査させるにあたり参照可能な資料を以下の3点とした。

- 本校で独自に作成している情報科テキスト
- 検定教科書
- 日経パソコン Edu

今回は主に教科書の内容をまとめることとしたため、特にインターネット上の任意のサイトを資料として許した場合、その内容の信憑性の評価などが入り込んでくるため、あえて通常使用するテキストと資料集に限定した。

ここで資料集として日経パソコン Edu を選んだのは次の理由によるものである。

最新情報の提供

本校独自のテキストや検定教科書に掲載されている情報は編纂した時点のものであり、現時点の情報とのタイムラグが発生するため、最新の動向が掲載されるこのサイトの記事を参照することでこの部分を補うことが期待される。

クラウド型教育コンテンツ

インターネットに接続する環境であればどこでも利用することができることによって、スマートフォンを保有する生徒であれば学内や家庭内だけでなく、例えば通学時などにサイトを参照し、詳細とまではいかなくても調査対象が記載されている記事を探すことは可能である。

日経B P社による運営

日経パソコンは2013年10月に創刊30周年を迎える歴史ある雑誌で、読者層は初心者からビジネスユーザーに渡る。このため、掲載されている記事は基本的なものからある程度高度な内容のものまでであるが、読み

やすく構成されていて、高校生であれば十分に理解することができると思える。

3.2 授業内容について

今回の授業は、高校1年生に対して、原則として合計3時間で実施した。

1 時間目：テーマ決定と調査

1 グループ4~5人としてグループ分けをした後に、各グループのテーマを決める。その後、指定した参考文献、Webサイトを利用し、重要だと思うポイントを配布した付箋に書き出す(1人につき15個)。その際には、出典を必ず書くこととした。全員書き出したら、付箋に書いたポイントを模造紙に貼り見せ合う。なお、今回の授業で取り上げたテーマは下記の5つである。これらは情報科テキスト、および検定教科書で扱われているものである。

- 迷惑メール
- 個人情報の漏洩
- SNSやブログでのマナー
- ネット詐欺
- 情報の信憑性

2 時間目：図解化と文章化

前の時間に書かせた付箋紙をもとにして、似たような意見をグループ化し、ラベルをつける(図解化)。発表で説明できるように、図解化したものをさらに文章化する。発表に備えてリハーサルを行う。

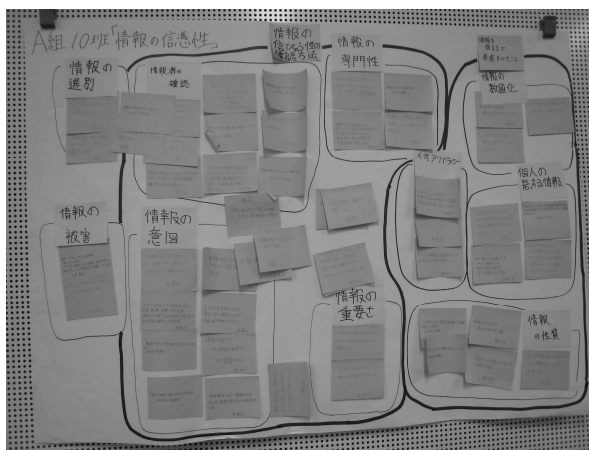


写真1 図解化の例

3 時間目：ポスターセッション

調査したテーマについて、図解化した用紙を使ってポスターセッションを行う。終了後、聞いた内容が理解できているか、確認を行う。

3.3 授業を通して分かった点

図解化のプロセスやその結果を見ると、参考資料が日経パソコン Eduのものについては最新の事例や、トラブルが発生した際の具体的な対応策などが多く取り上げられていた。

その一方で、調査テーマによっては出典が日経パソ

コン Eduのものが少ないケースがあった。これは日経パソコンが扱っていない事柄であった、あるいはサイト内の検索機能でうまくヒットさせることができなかったなどの要因を考慮することができる。

ただし、教科書以外にクラウド教材を使用した点については、何人かの生徒が利用しやすい、サイトに実装されている確認テスト機能などが興味深いなどの意見があり、ある程度の良い効果が見込めることも分かった。

4. おわりに

現時点では、当該内容に関する授業が完了していないクラスもあるため、今後はアンケートを実施した上でより詳細な考察が必要だが、日経パソコン Eduのようなクラウド型教材はこれからの教育の新機軸となる可能性に満ちている。

参考資料

- (1) 日経パソコン Edu <http://pc.nikkeibp.co.jp/npc/pcedu/>